

平成31年第1回木津川市議会定例会（3月4日）

一般質問通告書

1 島野 均	
質問事項：フレイル対策で介護リスクを減らそう	
質問 要 旨	フレイルとは、介護が必要な手前の状態を指す言葉です。人口構成の変化に対し、地域包括ケアシステムの中で含まれている要素（医療、介護、予防、生活支援、住まい等）のなかで、予防（フレイル予防）が重要と考える。新概念の「フレイル（虚弱）」は、加齢に伴う生理的予備能力の低下による病態である。 市ではフレイル予防をどう取り組んでいますか。三位一体（栄養、身体活動、社会参加）によるフレイルチェックが必要と思いますが見解を伺う。
質問事項：風疹の拡大防止を	
質問 要 旨	1 風疹患者数は 患者数が全国的に広がっていますが、市の状況はどうですか。 2 風疹予防 （1） 予防接種政策でワクチン接種を受けていない世代に対して、どのような対策をしているのか。 （2） 妊婦やパートナーへの予防啓発活動や抗体検査費、ワクチン接種費用の助成を行ってはどうか。
質問事項：幼児教育無償化で問う	
質問 要 旨	今年10月から消費税が上がり、幼児教育無償化が予定されている。 （1） 今年度と同じ保育園児数、幼稚園数とした場合、消費税増税により市への歳入増はどれくらいあるのか。 （2） 無償化により全国の4割の私立幼稚園が値上げを考えていると聞くと、市内幼稚園の使用料の動向は把握しているのか。 （3） 保育士の処遇改善を求める保護者の意見が多いが、市長の見解は、また、国への要望はあるのか。

2 柴田 はすみ	
質問事項：教育行政を問う	
質問 要 旨	来年4月からの教育費無償化とともに、2020年から未来を見据えた教育の大改革がスタートします。21世紀の社会を生き抜くために必要な能力は大きく変わると考えられます。あと10年から20年で、49%の職業が機械に代替えされる可能性があり、約1/3の企業が外国人留学生を採用。特に1,000人以上の企業では3社中2社は、その割合が増加するとの予測もあります。 変化の激しい時代を生きる子どもたちが、社会の中で活躍できる資質・能力を育成する。それが2020年の教育改革です。具体的に大きく変わるのは①学校教育が変わり、新学習指導要領へ。②大学入試が変わり共通テストへ等です。 市の教育委員会も、来年度に向け様々な準備が求められますが、現在の状況とこれからの展望について質問します。 （1） 小学校での「プログラミング教育」必須化の対応は。 （2） 3・4年生での「外国語活動」、5・6年生での「英語」教科化への対応は。 （3） 昨年、重すぎる通学かばんの改善を求めたがその後の状況は。 （4） 教師の負担軽減策の状況は。

質問事項： ごみ袋有料化による減量施策の進捗状況は	
質問 要 旨	昨年10月より、家庭系可燃ごみ有料指定袋制が導入されました。市民の皆様にご理解頂くため担当課は、市内各地に出向き説明会を開催しました。市民から中止や、延期の請願の提出等がありましたが、議論を重ね実施が決まりました。 スタートして約5カ月たちましたが、様々な意見が市民から私の耳に届きます。中止の要望ではなく、まだまだごみの分別方法や、出し方等の理解が広まっていないと考えます。そこで、市民の方により理解して頂くために質問します。 (1) ごみ袋有料化の説明会の開催数と人数は。 (2) これまでの問い合わせの内容と件数は。 (3) 拠点収集所の整備の状況は。 (4) 担当課として、ごみ袋有料化で、減量は進んでいると認識しているのか。

3 宮嶋 良造	
質問事項： 市民の力でごみを減らし、ごみ有料指定袋は中止を	
質問 要 旨	1 昨年10月からのごみ有料化で、可燃ごみ、容器包装ビニール・プラスチックごみなど、ごみ排出量はどのように変化していますか。 2 プラスチックごみの分別が曖昧になっていませんか。市民がごみの分別・減量を学び、実践する学習会や講座を市民や自治会と協力して増やしてはどうですか。 3 リサイクル研修ステーションを復活させてはどうですか。 4 廃プラスチックごみは、可燃ごみと同じ日に透明袋で出すことを認め、無料に戻してはどうですか。 5 市民の分別・減量の努力に依拠して、有料指定袋は中止すべきです。
質問事項： 幼児教育無償を積極的に進めること	
質問 要 旨	1 市には、幼児教育が無償になる対象施設はいくつありますか。 2 幼児教育の無償化で、市の負担はどの程度増えますか。公立保育園の無償化の財源は、100%自治体負担の方針であり、公立保育園の廃止・民営化を加速させませんか。 3 親のニーズが何であるか調査したのか。結果はどうだったのか。 4 幼児教育の無償化によって、私立幼稚園への入園希望者が増えることが予想されます。3歳児定員が少ない市立幼稚園には、入園希望者が少なくなるのでは。3歳児定員を増やすべきではないか。 5 給食費を無償にすべきではないか。
質問事項： 職員の待遇改善を	
質問 要 旨	1 意欲を引き出し市民に信頼される職場環境になっていますか。市長は職員とのコミュニケーションを十分に図っていますか。職員の要望を受けとめ、実現に向けて努力していますか。 2 職員・教職員は、全員健康診断を受けていますか。 3 健康診断結果をもとに、職員の健康が改善される手立てがとられていますか。 4 超勤を減らす努力は、どのようにされていますか。 5 職員が必要な時間外勤務を申請しやすい環境ができていますか。 6 臨時職員の賃金は、その月内に支給すべきではないのか。支給日が休日の時は、前倒しすべきと考えるがどうか。 7 臨時職員の賃金を引き上げてはどうか。 8 臨時職員が期間満了で退職した後、次に勤務するまでの期間を短縮してはどうか。 9 臨時職員を含め、待遇改善を進めてはどうか。
質問事項： 市民サービス向上と市財政	
質問 要 旨	1 「お金がない」と市民サービスを削り、ガマンを押しつけていませんか。 2 市の第一の役目は、市民の福祉向上ではないですか。 3 税金の使い方を変え、基金の一部も活用して、市民の暮らしと福祉向上を目指すべきではないですか。

4 伊藤 紀味枝	
質問事項： 学校トイレの洋式化を	
質問 要 旨	家庭のトイレは洋式が一般的になり、和式になじみのない子どもが増えた。小学校は災害時に避難所になるため、高齢者や障害者の利便性を高めるためにも、学校トイレの洋式化は急務である。 学校施設の老朽化に伴う大規模改修時に洋式化するのは、いつになるのか。 学校間の格差があり、市はどのように考えているのか。
質問事項： 危険道路に白線および「止まれ」表示を	
質問 要 旨	木津瓦谷と三桝町の境にある交差点は、変則的であり、また、小規模開発で車の通行量が増え、無謀な運転が横行しています。 特に、南から西に左折する車が、一旦停止もなく左折します。登下校時に学校協力員が立っただくことで、大事故を未然に防いでいるのが現状です。現在、接触事故を目撃している人も多くあり、対応が求められます。 白線や「止まれ」の表示等の考えは。

平成31年第1回木津川市議会定例会（3月5日）

一般質問通告書

1 片岡 廣	
質問事項：（仮称）大野新設道路について（地方道47号線天理加茂木津線）	
質問要旨	府道天理加茂木津線は、加茂地区と木津地区を東西に結ぶ道路で、特に、大野地区は、急峻な山と木津川に挟まれた地形のため、道路の幅員は狭小で、車両の円滑な運行の支障となっている。府は、延長370m、幅員10.5m、総事業費約5億円という計画をたて、平成29年度には測量調査を着手し完了している。 道路・樋門について、現在の国・府・市の協議の進捗状況をお聞きします。 （1） 現在、国、府、市の協議は、進んでいるのか状況を伺う。 （2） 現在の道路環境は、市も把握していると思うが、豪雨に対しての安全確保が必要であるとする。府に対し、平成31年度に道路線形の改良を着手するよう要望すべきと考えるがどうか。 （3） 樋門について、勝手神社の入口から25m、直径1mの管が地下に入る予定と聞きます。樋門は、1ヶ所で問題はないのか伺う。 （4） 残念石は、万全に守られるのか。 （5） 通学道路として、安全対策は万全か。
質問事項： 木津川の河川整備と水辺環境の整備を	
質問要旨	1 国に対して行っている河川整備の要望は、万全か。 2 今年度、国が行っている加茂・山城地区の対岸の2カ所で木津川の河川整備工事が行われています。河川整備の進捗状況について伺う。 3 木津川と一体となった水辺空間の整備を進めてはどうかと思うが、市の考えは。「かわまちづくり支援制度」に応募し、計画を進めてはどうか。

2 森岡 譲	
質問事項： 地震時の安全対策の拡充を	
質問要旨	平成30年12月議会に提案された一般会計補正予算で、ブロック塀等緊急安全対策支援事業費として2件30万円の予算が計上され、2件の申し込みがあったと聞く。そして、平成31年度の当初予算では、8件分120万円が予算化された。提案理由には地震による災害を未然に防止し、災害時の避難を確保するとある。また、将来にわたる効果は、災害時の避難路や通行人等の安全を確保できるとしている。そこで、次の点について聞く。 （1） 当初予算の8件を越える申し込みがあった場合、補正予算で対応するのか。 （2） この事業は、31年度の単年度だけであるのか。今後も、国・府の支援は続くのか。 （3） 提案されている内容からすれば、国・府の補助金がなくなっても、単費で引き続き支援事業を行なうべきだと思うが、市の考えは。
質問事項： 町内の排水路の清掃の今後は	
質問要旨	下水道の普及で各地域内の排水溝は今までとは違い、ヘドロ等が堆積しなくなって、水道水での放水も行われなくなってきています。それでも年に1回、または2回各地域で集まって排水路、集会所等の清掃を行っています。このことは町内を皆できれいにするとのものであり、非常に大事であると考えます。そこで、次の点について聞きます。 （1） 下水道の普及で各町内で清掃活動がなくなった町内はあるのか。 （2） 排水路の蓋が頑丈になって、蓋を上げにくい場所があり、バキュームで対応されていますが、現在何箇所あるのか。また、回数は。今後もバキュームでの対応を増やすことは考えているのか。 （3） 各町内会等から下水道も普及し、ヘドロの堆積もないので、町内ではせずに、市で行うべきだという意見は聞いているのか。そういう場合の市の対応は。

質問事項： 木津川は泣いているパート 4	
質問要旨	木津川を美しくするために、何回も質問してきたが、なんの進展もない。その間に、今年1月24日の京都新聞に、和束町などが、同町木屋の木津川右岸に「川の駅」を整備する構想を立て、実現に向けて動き始めたと報道された。 これらは、河川とまちが融合した良好な空間形成を目指す国土交通省の「かわまちづくり支援制度」を活用するとあった。 今まで私の質問で、市は近隣自治体で構成する木津川治水会を通じ、毎年、国土交通省に要望していると答弁されている。そこで、次の点について聞く。 (1) 毎年、国に要望されているが、現在の進展状況は。 (2) 和束町が行った「かわまちづくり支援制度」の要望はしなかったのか。 (3) 市広報2月号で案内があった2月17日に実施した木津川流域クリーン大作戦3カ所の参加人数は、どうであったのか。

3 九社前 幸朗	
質問事項： 幼保ニーズに適切かつ柔軟に	
質問要旨	「第3次木津川市行財政改革行動計画」や「木津川市子ども・子育て支援事業計画」を策定し民営化推進に向けて進められていますが、「第2次木津川市総合計画」の政策の基本方針1の内容に適合した運用方法になっていない。そこで、最近の市の取り組みを問う。 (1) 城山台小学校の放課後児童クラブの現状と児童数増加に伴う今後の対応は。 (2) 保育園の増設・見直しを望む多くの声があるにもかかわらず、市は保護者の要望を無視している。そこで過去に5項目にわたる社会福祉法人4団体から「平成29年4月開園予定の認定こども園に対する要望書」が市長あてに提出された。 私は、喫緊の要望であると思うが、市の回答は、十分なものではなかったと聞く。 現在、若い世代の転入も多い中、乳幼児のいる保護者は困惑しており、要望に対する市の回答を明らかにし、要望事項について再考する考えはあるのか。 (3) 幼児教育・保育無償化が、2019年10月から始まる予定である。全国市議会議長会から、財政負担についての資料を確認したが、無償化により市の幼稚園、保育園等の運営にどのような影響があると予想しているのか。また、市の財政対策はどうか質問する。
質問事項： P C B等の処理対策は	
質問要旨	平成30年3月定例会において、P C B処理、ダイオキシン処分、アスベスト撤去の処理方法を問いましたが、その後の状況は。
質問事項： 行財政改革について	
質問要旨	「第3次木津川市行財政改革行動計画」の管理経費の見直しに関連して、防犯灯のLED化や公共施設のLED化等の進捗率は。また、公共施設のトイレなどは、フラッシュバルブの取り替えを行い節水をする等経費削減をしてはどうか。 また、地方債・借入金・公金の適正管理について、これまでどれだけの財政効果があったのか。今後も行財政改革は進めていくと思うが、予定している具体的な施策はあるのか。
質問事項： 任期中において「市民と議会のつどい」での声を聞いて	
質問要旨	「市民と議会のつどい」の中での市民からの声について、市の考え方を問う。 (1) 地域住民と学校図書室開放の今後のあり方について、再度聞く。 (2) 山間周辺地域に対するコミュニティバスの今後のあり方について、市の考え方は。(少子高齢化、買い物、交通網等の問題) (3) 民泊を含む宿泊施設の今後のあり方について、市の考えは。(キャンプ場、ユースホステル、宿坊、旅館、ホテルなど)

4	森本 隆
	質問事項： 住みよさランキングの上位を目指して
質問要旨	2018年6月18日現在、全国で791の市がある。毎年、東洋経済新報社が発表している住みよさランキングで木津川市は、全国112位に位置している。ランキングは、安心度、利便度、快適度、富裕度、住居水準充実度の観点から採点されている。木津川市は京都府内で、向日市の64位について、2番目とランク付けされている。特に、快適度は全国791市のうち9位と評価されている。これは市長が進めてきた子育て支援を初めとする、一歩先をいった取り組みと、行財政改革、人口増に対する取り組みが功を奏して、バランスの取れたまちづくりができたものと評価されたものではないかと思う。 このような取り組み内容は理解できるが、一般市民にとってはわかりにくい。市長は、次の市長選に立候補される予定だが、市民に住みよさランキング上昇の内容を知っていただくための施策も含めて、下記内容を問う。 (1) 全国住み良さランキングは、2010年に全国81位であったが、その後、2016年は、240位と低迷し、2017年182位、2018年112位に回復してきた。 このランキング回復の要因と今後の取り組みは。 (2) 財政健全化ランキングでは、木津川市は308位、京都府では、京田辺市が132位である。 下位となった理由と財政健全化のための施策は。 (3) 成長力ランキングでは、過去下位（2010年は94位）であったが、今回は、全国6位と上位にランキングされている。この内容についての分析と、この内容を維持する施策は。 (4) 活力度ランキングでは、木津川市は468位となっており、平均より下回っている。京都府では、京田辺市が363位である。下位にある理由と上位に上げる施策は。
	質問事項： 働き方改革の推進で仕事の見直しを
質問要旨	労働時間法制の見直しが実施され、2019年4月1日より、『「働きすぎ」を防ぎながら、「ワーク・ライフ・バランス」と「多様で柔軟な働き方」を実現する』ことを目的に、残業時間の上限規制を中心とした、労働基準法、労働安全衛生法、労働時間等設定改善法の改正が実施される。 民間については、残業時間は、原則として月45時間以内、年360時間として、従来は、法律上は上限がなかったが、月100時間未満の上限規制が実施される。 国家公務員については、大規模災害への対応等を除いて、同様の取り組みをすることが決まっている。このような背景のもと、地方公務員である市職員と教員についての取り組みを問う。 (1) 2018年度の市職員の残業実績と年間残業時間見込みは。 また、2019年度から残業規制は、どのように考えているのか。 (2) 2018年度の市の小中学校の教員の年間残業見込みは。 また、2019年度から残業規制は、どのように考えているのか。 (3) 市職員の残業時間を減らす取り組みとして、「フレックスタイム制」の導入を提案したが、本制度の検討の進捗は。 (4) 2019年1月25日に中央教育審議会に答申された「新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について」の中で、市の業務と学校運営に大きく関わる内容がある。 代表的な内容として、「給食費の公会計導入」が必要との答申であるが、この内容についての市の見解は。

平成31年第1回木津川市議会定例会（3月7日）

一般質問通告書

1 河口 靖子	
質問事項：弱者に優しい政策を	
質問 要 旨	10年後、20年後のわがまちが直面する課題は、旧市街地の活性化、子どもたちの幸せを願うまちづくりを推進していくことにあります。しかし、本市のまちづくりがこれで良いのか、また、衰退地域と開発地域を比較すると、格差が大きく広がっていることで疑問視する声などを聞きます。 一方で、発達障害の子どもを持つ親御さんたちから、誰もが安心して暮らせるまちにとの声も聞きます。 だからこそ2019年は、旧市街地の活性化に取り組むことで、全てが良好な方向に向いていくと考えています。 そこで、まず初めに行財政改革等により衰退経過をたどっている加茂地域を活性化するために、行政は何から実行するのかを問います。 (1) 発達障害の子どもたちに、ST（言語聴覚士）、OT（作業療法士）、PT（理学療法士）が受けられるシステムづくりを。 (2) 南加茂台小学校にインクルーシブ教育の推進を。 (3) 交通路線の広域化を。（加茂、南加茂台から大型商業施設への路線） (4) 市道の維持管理を（南加茂台地区内道路のひび割れ箇所や白線等交通表示の不鮮明な箇所の修繕整備等）
質問事項：過去の質問からのその後	
質問 要 旨	平成27年第2回定例会からの4年間で、34項目の質問をしてきました。しかしながら、行政と私との考え方や問題に対する重要性の認識に違いが見受けられました。 最後に再度、質問項目として、下記の内容を問います。 (1) 上下水道事業の経営改善を ① 上下水道事業を1部1課制に。 ② 上下水道施設管理の「包括的民間委託」への移行を。 ③ 大学教授、弁護士、公認会計士等による「包括的民間委託審査委員会」の設置を。 ④ アセットマネジメント及び水道ビジョン改訂業務の内容及び進捗状況は。 (2) 府道・市道における諸問題 ① 大野地区の狭隘道路の拡幅を。 ② 加茂駅から岩船寺までの府道など、狭隘道路の改良工事の見通しは。 ③ 加茂町岡崎の変則交差点改良工事の進捗状況は。 (3) JR木津駅東口の歩道のタイル破損修復はいつできるのか。 (4) 家庭系可燃ごみ有料指定袋制度の収益を活用した具体的な施策について、廃棄物減量等推進審議会での答申の内容は。また、それを受けて市の対応は。

2 森本 茂	
質問事項：生活困窮者にはごみ袋の減免を	
質問 要 旨	この件については、昨年の9月議会でも質問しておりますが、厚生労働省の毎月勤労統計をめぐる問題に関連して、1月30日、2018年の実質賃金が実際はマイナスになる可能性があることを厚生労働省は認めました。1～11月のうちプラスはわずか1カ月だけで、通年でも実質賃金は前年より減っている見通しである。デフレからの脱却が見通せない生活状況にもかかわらず、本市は、ごみ減量化については、昨年10月1日から家庭系可燃ごみ有料指定袋制を導入して、市民の皆様は、負担をしていただき取り組んでいただきたいとしています。

質問要旨	そこでお聞きします。ごみ袋の有料化による収益を循環型社会推進基金元金積立金として、31年度3,928万7千円を見込んでおり、そして、31年度循環型社会推進基金繰入金の活用事業として1,113万円計上。2,815万7千円の手数料収入の残金が見込まれる。この残金を利用して、せめて、生活困窮者、例えば、生活保護世帯や母子世帯・低年金世帯・障がい者世帯・高齢者世帯・子育て世帯で非課税世帯の方々については、ごみ袋有料制に減免制度を導入すべきと考えます。再度、減免の導入を訴えます。市長の見解をお伺いします。
質問事項： 介護保険制度の今後は	
質問要旨	昨年の日経新聞によりますと、75歳以上の後期高齢者が65～74歳の前期高齢者をまもなく上回り、高齢者全体の半数を超える。寝たきりや認知症など身体的な衰えが強まりがちな後期高齢者が急増する「重老齢社会」が到来する。定年退職後も元気なアクティブシニアが活躍する構図は次第に薄まり、高齢者をどう支えるのかが、より深刻に問われる時代が来ると書かれています。 平成31年1月31日現在の本市の人口は77,272人であり、その内65歳以上の人口は18,587人で高齢化率は24%となり、世界保健機構（WHO）の定義では、21%超は「超高齢社会」と位置づけられます。 ただ、今の日本では医療の発展などにより65歳を超えても元気な高齢者は多いことも事実であります。しかし、そんな状況も後期高齢者が全体の半数を超え、中心になることで「重老齢社会」へ変わることになると考えられており、大きく変わるのが介護であるといわれています。 本市では、前期高齢者で要介護認定されている人は2.6%だが、後期高齢者になると23.5%に跳ね上がり、全国では、高齢者が高齢者を介護する「老々介護」は、75歳以上になると自宅介護の3割を占めるようになっていきます。 これからは、増々高齢者を支える負担が増すと同時に、団塊の世代が全員75歳以上となる2025年には、全国では後期高齢者が前期高齢者の1.5倍の人口増になるとされており、交通手段の確保、認知症対策の推進、老々介護対策、介護保険施設入所待機者の解消、空き家問題などの「超高齢化社会」における課題解決が迫られると考えますが、市長の見解をお伺いします。 また、厚生労働省の調査によれば、2025年には介護給付額が総額21兆円程度、国民が負担する介護保険料は全国平均で8,200円（今5,300円）ほどになると見込まれています。こうした状況に対応すべく求められているのが、地域包括ケアシステムの構築です。介護保険サービスなどの公助だけでなく、自助・共助を組み合わせる地域の高齢者の暮らしを支えていこうというシステムであり、これは、3年ごとに見直しが行われる「介護保険事業計画」において地域包括ケアシステムを実現できる支援・サービス提供体制の整備に力を注ぐこととしています。 これらの計画に基づく体制の整備によって、今後の特別養護老人ホームに待機なく入居できたり、在宅介護サービスが持続的に受けられたり、身体介護に携わるヘルパーなどの担い手確保等の課題解決について、市長の見解をお伺いします。
質問事項： 財政健全化について	
質問要旨	本市は、一般会計283億700万円、7特別会計と2事業会計を合わせた総額473億4,300万円の当初予算案を発表した。一般会計は前年度比0.1%減と前年並み。新規事業は、城山台地区の児童増加に対応した児童クラブ施設増設費2億1,700万円や城山台小学校舎増築設計費5,600万円、国道163号バイパス道「木津東バイパス」直結の天神山線整備8,500万円など。継続事業は、2020年度稼働予定の新学校給食センター建設費15億5,900万円、木津駅前地域の道路新設改良費9,200万円、地域産業のブランド力強化事業680万円、歳入は、新增築家屋や企業の固定資産税が伸び、市税が2.8%増の97億2,100万円。地方交付税は縮減するが総額は、前年比8,000万円増の53億7,000万円。財政調整基金などの基金から計20億500万円繰り入れる。 本市の平成31年度市債発行額は、対前年度比4%減の23億5,430万円であり、市債残高は、326億9,576万円の見込みである。また、学研開発による関公費（都市再生機構関連公共公益施設整備費立替金）の償還については、2億906万4千円である。 合併算定替により、地方交付税が6億円減額になり、平成31年度予算（骨格）で、基金の取り崩しは、約20億円である。大きな事業として、新学校給食センターに基金から、4億3千万円や、天神山線道路改良事業へ8,500万円（UR都市機構より先にもらっている分）などである。

質問 要 旨	経常収支比率については、平成２８年度決算９７．８％、平成２９年度決算９５．８％、平成３０年度は、９６％未満を目指しておられる。そのために平成３１年度予算では、どのような対策を考えておられるのか。市長に見解をお聞きすると共に、財政の最大のピークは、平成３０年度の市債発行残高で、３２９億７６４６万４千円だった。平成３１年度見込額は約３億弱減ることもあって、最大のピークは平成３０年度と思われるが、その考えで良いか、市長の見解をお伺いします。 また、本市は今のところ、人口が伸びており、先行投資と行財政改革（行政サービス改革を含む）や、住民福祉、特に、高齢者福祉をどう持続させるのか。実効性のある施策が市長に求められている。 そして、「第３次行財政改革行動計画」と「第２次総合計画（案）」の、財政健全化に向けた改善策の取り組みについて、市長の見解をお伺いします。
質問事項： 河井市政３期の成果と本市の将来展望について	
質問 要 旨	市長の３期・１２年のなかで、最も重要であったと思われる事業で、成果をあげたと市長が自負されている事業の１番は何だとお考えになっているのか、市長の見解をお伺いします。 そして、その成果が成し遂げられるに至った要因は、どのような事であったのかについても、お伺いします。 次に、本市の将来ビジョンについてであります。第２次総合計画（案）にも謳われていると思います。「国家百年の大計」といわれるように、本市のまちづくりも１２年くらいでは、まだまだであると言わざるをえません。私としては、更なる子育て支援・高齢者福祉・初等教育の充実、農商工業の振興対策、木津合同樋門の内水対策、相楽中部消防本部の移転、３３５号の拡幅、木津東地区の土地利用の推進、宇治木津線の実現、ＪＲ奈良線・片町線複線化、耕作放棄地対策、空き家対策、持続可能な財政運営対策等々の課題があると考えておりますが、市長におかれては、本市の将来ビジョンの最大の課題は、何だと考えておられるのか、お伺いします。そして、その課題解決には、何が重要であると考えておられるのかについても、見解をお伺いします。

３ 西山 幸千子	
質問事項： HUG（避難所運営ゲーム）より	
質問 要 旨	先日、HUGを体験しました。避難所運営ゲームは、災害が起こり続々と避難所に避難してくる人を、的確に判断して誘導するゲームです。普段は気づかない事や想像していなかった事が起こるのが災害です。木津川市が震度７の地震で被災したと想定し、以下の点を聞きます。 （１） 学校の体育館が避難所の場合、まず開設時に職員は何人配置できますか。 （２） 水・食料・毛布・簡易トイレなどは、どこに置いてありますか。誰が管理していますか。すぐに準備できますか。 （３） 高齢者等で足の不自由な人が避難して来た場合、どんな配慮ができますか。体育館は十分バリアフリー化ができていますか。寝たきりの方や妊婦さんの場合は、ベッドなどの手だてがどの程度できますか。 （４） 外国人が避難して来た場合の対応は。耳の不自由な人が来た場合は。また、目の不自由な人の場合は。 （５） 福祉避難所との連携は。何時間後に福祉避難所に誘導できますか。その方法はどのようなものですか。

質問事項： 中学校の制服が子どもたちの負担にならないために	
質問 要 旨	以前、不登校問題を取り上げた時に、中学校の制服について質問しましたが、再度質問します。 (1) 女子の制服にスラックスがある学校は。スラックスが選べる学校と、用意さえしていない学校があるのはなぜですか。 (2) 男女別ではなく、スラックスを選べるようにしてはどうですか。 (3) 中学生の頃は、子どもによって身長が著しく伸びたり体型が変わったりします。制服は決して安価なものではありません。入学時だけでなく買い替える場合もあり、保護者の金銭的負担が大きいものです。負担を減らすための工夫と改善は。
質問事項： 支所機能の縮小は約束違反	
質問 要 旨	木津川市が合併の時に、合併によってサービスの低下や住民に負担や不便をかけることは決しないと、住民は聞かされていました。 加茂と山城は高齢者の割合が高いが、度重なる支所機能の縮小で諸手続きが支所でできなくなりました。また、鳥獣被害などでも以前は地元をよく知った職員が素早く対応していましたが、今はそれともなくなりました。 (1) 住民、特に高齢者の元へ出向いて行って、手続きや相談など行政サービスの提供を行うべきですが、どうですか。 (2) 反対に若い人の場合は、利便性を向上させもっと簡単・簡素にインターネットで手続きができるよう改善をすすめてはどうですか。

4 炭本 範子	
質問事項： 市の働き方改革について問う	
質問 要 旨	働き方改革が31年4月から施行されますが、職員等の働く視点に立ったものであるか、働きやすい状況になるか、お伺いします。 (1) 平成31年4月1日現在の職員、嘱託職員、臨時職員等の人数は。また、休職されている方の人数は。 各課の人員の配置は、必要となっているのか。(市の規模と現状を勘案した上で) (2) 職員の長時間労働の現状は。国が示す残業時間は。また、仕事内容についてはどのようになるのか。 (3) フレックスタイム制の導入について、市の考えは。 (4) NPO法人等、公益活動を目的にする副業をどう考えるか。 (5) 市立小・中学校における教員の夏季休暇は、5日以内と決まっているが現状は。また、夏休みの学校閉庁日はどう考えるのか。
質問事項： 31年度に繋ぐ課題を問う	
質問 要 旨	1 空き家対策の進捗状況は。移住促進特別区域を指定し活用すべきではないか。 2 瓶原地域の汚水処理について、区長会の方針は『平成28年度引き続き「公共下水道整備の推進」を地域要望していく。農業用水路への生活雑排水の流入や、排水の流れが悪い地域があり、早期に解消するよう要望する』となっています。市は、これまで地域の役員に対してどれだけの説明をし、住民は、納得しているのか。 3 平成29年度一般会計補正予算第7号において、計画していた土砂災害区域内の高齢者等、要配慮者のみの世帯で希望する世帯への戸別受信機の配付の予算を取り下げた。市は、今でも戸別受信機の見直しは正しかったと考えているのか。
質問事項： 歴史遺産の整備・活用について問う	
質問 要 旨	歴史文化基本構想の策定が進められています。事業の進捗と今後について、また、このことにより今まで進められていた事業が止まるのではないかと心配があります。旧町時代から守ってきた史跡は、どう整備されるのか、お伺いします。 (1) 椿井大塚山古墳の後は。 (2) 当尾石仏をどう守るのか。 (3) 恭仁宮の整備活用の見通しは。

平成３１年第１回木津川市議会定例会（３月８日）

一般質問通告書

１ 酒井 弘一	
質問事項： 山城町のメガソーラー計画	
質問要旨	山城町神童子区の山林に巨大な太陽光発電施設を建設しようとする計画がある。現在は、まだ府へ正式な事業申請は行われていないが、事業者は神童子区に対する説明を開始した。このことについて質問する。 (１) 先般、関係地域の住民から市長あてに要望書が出された。市長はどう考え、どう返答したか。 (２) 事業者の計画の概要説明を求める。 (３) 住民は「２８災」の再来を恐れている。「２８災」とはどのようなものだったか、再確認を求める。 (４) 将来、府から市へ見解を求められることになる。その時の基本的な考え方、市のスタンスはどうか。 (５) 全国や府内自治体でも太陽光発電施設に関して、景観保全や周辺の環境保全、防災の観点から規制をかけようとする動きが強まっている。市も今後にも備え、独自の規制条例の制定を考える時ではないか。
質問事項： 保育所民営化等実施計画の見直しを	
質問要旨	来年度の保育園入園申請１次申し込みが終了し、現在２次申込みを行っている。申し込み状況は、昨年度実績を上回ると思われる。そこで伺う。 (１) 今年の１次申し込みの際して、４時間以上待たされたとの声を聞く。また、保育室もないことへの不満の声を聞く。この事態が起こった原因は何か。 (２) 城山台地域の申請状況、現在の城山台に住んでいる子どもの城山台保育園の入園状況、来年度の見通しはどうか。 (３) 現在、実行中の保育所民営化等実施計画は、非常に無理があると思われる。早期の見直しと計画の変更を求める。
質問事項： 市長は消費税１０％に反対の声を	
質問要旨	政府は、１０月の消費税１０％への引き上げを表明する一方、「来年度予算成立後に最終決定する」（官房長官談話）などと揺れ動いた発言も聞かれる。このことについて、市の見解を問う。 (１) 国は、ポイント制、複雑な軽減税率の導入をしようとしている。概要の説明を。 (２) 深刻な不景気が続く中、消費税１０％は国民の暮らしにも、そして、景気にも深刻な悪影響を及ぼすのは必至である。市長は、税率引き上げに中止の声を上げるべきと考えるがどうか。

２ 谷口 雄一	
質問事項： 目標達成に向けて着実なごみ減量化施策の推進を	
質問要旨	平成３０年１０月より家庭系可燃ごみ有料指定袋制がスタートしました。環境問題を解決する重要な方策としてのごみ減量化に向けて、着実な推進を図っていただくことを期待するところです。全庁を挙げての取り組みはもちろんですが、市民の方々がより主体的にご協力をいただくよう、効果的な施策を継続的に展開するとともに、情報発信の強化が重要と考え、以下の通り質問いたします。 (１) 制度導入後のごみ排出量の推移は。また、当初見込みとの差異と評価は。 (２) 廃棄物減量等推進審議会における循環型社会推進基金の活用方法の協議内容は。また、平成３１年度の取り組みとして、推進部会・評価部会の設置が予定されているが、どのような体制と役割を期待しているのか。 (３) 古紙類や雑がみ類の分別は、減量・再資源化の両面において、特に有効と考えるが、雑がみ袋配布の検討はどうか。

質 問 要 旨	(4) 環境意識の啓発や、ごみ減量の見える化と情報発信の具体的な取り組みは。 (5) 学校での環境教育において、制度導入を機に特段の取り組みを実施したのか。環境の森センター・きづがわへの施設見学は、効果的と考えるがどうか。 (6) 『もったいないプラン』（ごみ減量化推進計画）に示された可燃ごみ30%削減の期限は、7年後の平成37年度である。目標達成に向けて継続的な施策の推進と、点検・評価を行い、必要な改善を実施するといった計画的な取り組みが重要と考える。どのようなビジョンで臨もうとしているのか。
質問事項： 健康寿命の延伸を目指せ	
質 問 要 旨	人生100年時代ともいわれる中、元気で意欲のある高齢者の方々に、その経験や知識を発揮いただくために、いつまでも健康で過ごせる環境づくりが必要と考えます。 一方で、介護を必要とする方や生活習慣病の方は年々増加しており、健康寿命を延ばすことは、各種給付費の抑制につながる観点からも重要な課題であり、本市の取り組みについて、以下の通り質問いたします。 (1) 本市における健康寿命の現況値と目標値の認識は。 (2) 『すこやか木津川21プラン』（健康増進計画・食育推進計画）の進捗状況は。また、計画の位置づけとして国策定の『健康日本21』、府策定の『きょうと健やか21』との整合性は図れているのか。 (3) 高齢者の運動器機能向上プログラム「元気もりもりクラブ」の実施状況は。 (4) 介護予防サポーターへの活動支援と、体操教室の普及に向けての取り組みは。 (5) 健康寿命の延伸に向けて、今後の取り組み方針は。

3 尾崎 輝雄	
質問事項： 行財政改革について	
質 問 要 旨	私は、平成15年の木津町議会議員に当選させていただいて以来、行財政改革の推進を訴えてまいりました。 河井市長も、積極的に行財政改革に取り組んでいただいたと高く評価しております。 このような中で、今年は、消費税増税対策として国を挙げて、現金支払いからキャッシュレス決済を広げる取り組みが進められようとしています。 そこで、市役所の更なるキャッシュレス化を進め、市民の利便性と職員の事務の効率化などを進めるべきとして、以下の質問をします。 (1) 市の収入（税金や使用料）における現金とキャッシュレスによる納付率は。 (2) 口座振替やコンビニ収納の手数料は。 (3) キャッシュレス決済の検討状況は。
質問事項： 今後の見通しは	
質 問 要 旨	以前からも、たびたび質問して参りました内容ではありますが、平成から新しい元号を迎える年に当たり、再度実現に向けて、以下の4点を質問させていただきます。 (1) 公共施設等総合管理計画の進捗状況は。 (2) RPA導入に向けての取り組み状況は。 (3) 道路管理（東中央線等）について、府への移管は何時ごろか。 (4) 公立幼稚園の民営化に向けての取り組みは。